



樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL：0155（37）5501
発行日 令和5年2月28日

1年次、初めての探究発表会



2月17日（金）に1年次の探究発表会が実施されました。これは今年度より「総合的な探究の時間」で進められてきた探究プログラムの総仕上げとして、「地域課題」を共通テーマに15のゼミに分かれて10月から10回にわたって展開してきた探究活動の成果を全体で発表するというものです。探究活動を支援してくださった外部の方31名、そして20名を超える保護者の方が参加して下さいました。

武内ゼミでは福祉をテーマとし、介護従事者のためのエプロンを提案し、実際に作ってみせてくれました。また、山崎ゼミでは「地域経済の活性化」をテーマに、十勝というくりは非常に大きなネームバリューがあるが、その陰に市町村名が出てこない現状を指摘。まずはその表記から始めることを提案しました。それぞれのゼミで学んだことを足がかりに、自分たちなりに考えた解決法を提案していました。

参加された外部の方から「生徒さんが感じている事、その眼差しが私たち地域の大人にもとても素晴らしいインスピレーションを与えてくれました」「実際に地域の大人と関わり、探究活動を行いスライドを作り発表するという、本当に素晴らしい取り組みだと感じました」「自分の子どもに三条を勧めたくなりました」などの声が寄せられました。また、保護者の方からは「生徒たちが学校やパソコンから離れて、実際の現場(お店)で活動することは貴重な体験になったと思います。『探究活動』にかかわらず 生徒自身が動いて感じる機会は大変にしていけたらと思いました」と感想をいただきました。生徒からも「企画が面白いものもあり、実現して欲しいと思った。(自分たちの発表は)苦労もあったけど楽しかった。次の発表の際にはしっかりと練習をして臨みたいと思う」という声がありました。生徒たちは今後、しっかり振り返りをして、2年次の進路別類型探究活動につなげていきます。ご協力いただきありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。



【探究ゼミ一覧】

杉崎ゼミ「世界とつながるとかち」
武内ゼミ「帯広・十勝における福祉の課題」
堀口ゼミ「帯広の光を観る」
永木ゼミ「自然について考える」
櫻井ゼミ「商品開発」
石田ゼミ「幕別町発祥パークゴルフ」
鳥井ゼミ「十勝の食と農業」
伊澤ゼミ「十勝の魅力を発信しよう」
橋本ゼミ「とかちのスポーツの発展に向けて」
山崎ゼミ「地域経済の活性化」
山上ゼミ「地域貢献・地域活性化」
村上ゼミ「アートで十勝を元気に」
山室ゼミ「魅力ある街づくり」
窪田ゼミ「子どもたちに十勝の魅力を伝えよう」
合浦ゼミ「地域にとっての教育」

学校評価アンケート結果報告

過日、保護者の方々にお願いした学校評価アンケートの結果をご報告します。これは本校の教育活動について幅広くご意見を伺い、次年度に活かしていこうとするもので、Googleフォームでの回答をお願いしたところ。今年度は回収率が約30%でした。まだ高い回収率とは言えませんが、アンケート回答の他に多くの意見も寄せられ大変参考になるものでした。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、結果は右表の通りですが、昨年に引き続き概ね良い評価をいただいたものと思っています。しかしながら、昨年度評価より下がった項目に関連していただいたご意見には、「学校生活がどのようなものなのかがほぼ伝わってきません」という意見も寄せられました。この学校通信やHPだけでは伝わる内容にも限界があるかと思いますが、コロナ禍で制限されていたPTA活動等も再開してきていますので、その機会を利用しながら今後も情報発信を心掛けて参ります。それをきっかけにお子様から学校の様子を聞いていただけたらと考えております。その他、部活動指導や生徒指導に対する貴重なご意見をいただきました。この結果を先日職員会議で共有しましたが、次年度の課題として位置づけ、今後の取組に活かしていくとともに、機会をとらえて保護者の皆様に報告していきたいと思っております。

令和4年度 帯広三条高校 学校評価アンケート(保護者)結果

A:十分(そう思う) B:おおむね十分(そう思う)
C:不十分である(あまり思わない) D:改善を要する(全く思わない)
E:よくわからない (A=4, B=3, C=2, D=1として評価の平均値)

	評 価 項 目	今年(昨年)
1	本校の教育内容は生徒や保護者の期待や要望に応えている	3.1 (3.0)
2	生徒の主体的な学びにつながる授業を行い、学力の向上を図っている。	3.1 (3.0)
3	学習と部活動を両立させる適切な指導が行われている。	2.9 (2.9)
4	他を思いやりいじめのない公平公正な行動のできる生徒を育成している。	3.2 (3.0)
5	生徒の主体的な活動を促し、自主自律の態度を養っている。	3.1 (3.0)
6	生徒理解を基に家庭と連携して組織的な生徒指導や生徒相談が行われている。	2.9 (2.9)
7	生徒の進路意識を高め、生徒自らが進路選択できるよう指導している。	3.0 (3.1)
8	ホームページ、学校通信『木蔭静け』、学年通信などを活用して、学校の教育活動や情報を積極的に発信している。	3.0 (3.1)
9	健康と安全に関する教育が適切に行われている。	3.0 (3.0)
10	本校に入学させてよかった。	3.3 (3.4)

第28回 3-6担任・バレーボール部顧問 池谷内 諒 教諭

信頼される人になってほしい！

◇主体的にやって初めて楽しさを知る

高校入学後にバレーボールを始めて、母校はそこそこ強い学校だったので、練習がきつくてやめたいと思っていました。でも、なんとか続けて3年になった時、初めてバレーが楽しいと思うようになりました。それは、自分たちがチームをなんとかしなくては、という立場になってようやく自分が主体的にバレーボールに向き合ったからだと思います。練習のメニューを自分たちで考えたり、だらしのないメンバーにどう声をかけたらいいとか、チーム作りのために本当に色々考えるようになりました。気づくのが遅すぎたなと今でも少し後悔しています。

◇やりがいを感じた教育実習

大学は自宅から通える大学ということで教育大に進学しました。高校で地学を選択していたこともあり、火山岩石学を専門に学びました。黒曜石（十勝石）の研究のために糠平にフィールドワークに来たこともあります。この石はおもしろい石で、ガラス質に水分を含んでいるために熱するとポップコーンみたいに膨らんで破裂するんです。十勝の人にとっては珍しい石かもしれませんが、とても貴重な石なんです。

大学3年の時に母校で教育実習をするのですが、当然授業をするのは大変でした。苦労してなんとか授業をしていたのですが、生徒から「先生の授業はわかりやすいです」とニコニコしながら言われたんです。その時の嬉しさといったらたえようもないくらいでした。予習は本当に辛かったけど、生徒に認められたという達成感があって、これが『やりがい』なのかな、と思いました。それで教員になることを決めました。

◇卒業担任として

3年間を通して担任をもたせてもらって、こうして卒業を迎えられることがとても嬉しいです、有り難いことだと思っています。

3年前異動してすぐの担任でした。生徒たちの第一印象は

「大事に育てられているなあ」というものでした。本当に素直でし、言われたことはきちんとこなす。でも、今ひとつ自分の殻を破るまでにはいたっていないという思いもありました。でも、今こうして振り返ると、みんな本当に人間的に成長したなあと思います。目標をもって自分から行動できるようになり、たくましくなってきました。

赴任当初、生徒たちの授業に対する真剣さがすごくて、自分も勉強しなくては、という気にさせられました。そして自分が頑張った分、生徒もしっかり応えてくれて結果も出してくれました。そしてまた、自分も頑張ろうという気にさせてくれました。感謝です。

私は生徒たちによく「信頼される人になりなさい」と言っています。社会では色々な人とかわからないと生きていけません。マナー、一般常識を身につけ、周囲から信頼されるよう努力し、人を裏切らず、周囲に感謝しながら生きていく、そんな風に自分はありたいと思っています。ですから、自分は小さな仕事や役割を絶対にサボらないように心がけています。でもまだまだです（笑）。



インタビュー

キラリ

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

バドミントン第55回道高校新人大会で女子シングルス第3位

2年1組 奥田 梨乃 さん



1月によつばアリーナ十勝で開催された全道新人大会で女子シングルス3位を獲得した2年1組奥田梨乃さんにお話を伺いました。

「目標を全道ベスト4としていたので嬉しかったです。地元開催だったので慣れた環境でし、なにより今までお世話になっていた方々からの応援が力になりました」と心境を話してくれました。バドミントンに出会った

のは6歳、小学校1年の時だったそうで、「私が小学校から帰るとランドセルを置いてそのまま外に遊びにいく子どもだったので、母が心配して体育館で体を動かすのなら安心だということでバドミントンクラブに入れたのが最初です。体育館に行くなら何でもよかったみたいです」と笑います。でも2年生の時に全道大会に出場して、強い人のプレーを見てもっと上手になりたいと思うようになったそうで、それ以来、バドミントン一筋。4歳下の妹さんも梨乃さんの影響で幼い時からバドミントンを始め、今では家の中でも羽を打ち合っていると言います。専用の場所があるのかと聞いたところ、「普通にリビングに簡易ネットを張って打ち込めます」と言うのでビックリ。「大丈夫なんですか」と聞くと「一度だけ天

井の電球割っちゃいました」と笑います。「両親はバドミントンをやったことはないのですが、私のために海外選手のプレー動画を編集してくれたりと、技術的なことも一緒になって勉強してアドバイスをしてくれます」と言い、感謝の言葉を口にします。

短いシーズンオフは、課題のフットワーク向上のためにしっかり筋トレをしているとのこと。「高校最後の1年。後悔ないように頑張ります。今年のインターハイは北海道が舞台です。小さな頃からお世話になった方々への恩返しができるよう全国目指して頑張ります」と力強く話してくれました。

後輩たちへのメッセージをお願いすると「スポーツに限らず部活動をしていると人間的な成長ができると思います。挨拶、礼儀、気遣い、どれをとってもしっかり身につけておきたいものですが、それは部活動によって少しずつ身につけてくるのだと思っています。他校のある先生から『あなたはいつでも挨拶してくれるから応援したくなる』と言われたことがあります。私も、もっと人から応援される選手・人間になりたいと思っていますし、そうした一人一人の積み重ねによって、三条高校が応援される学校になるのだと思います」ときっぱり。校長講話で使いたい素晴らしい言葉です。ベタな表現ですが、『バドミントンに賭ける青春』という言葉がぴったりの奥田さんでした。全国目指して今日も頑張っていることと思います。You can do it！